



参加無料
要事前申込

県民カレッジ
連携講座

令和8年度

日本海学シンポジウム 「大伴家持から見た古代社会」

令和8年 10月18日（日） 13:00～16:00

高志の国文学館 研修室101（富山市舟橋南町2-22）

基調講演 13:10～14:10

「国司大伴家持の日常——文書、巡行、裁判、そして宴——」

講師：上野 誠（國學院大學文学部日本文学科教授（特別専任）／奈良大学名誉教授）
1960年福岡県生まれ。國學院大學大学院博士課程満期退学、博士（文学）。
奈良大学名誉教授、國學院大學文学部特別専任教授。日本民俗学会研究奨励賞など多数受賞。
『万葉挽歌のこころ—夢と死の古代学』（角川学芸出版2012）、『万葉文化論』（ミネルヴァ書房2018）
など著書多数。歴史学・民俗学・考古学を生かし、『万葉集』の新たな読み方を提案している。



パネルディスカッション 14:25～16:00

「大伴家持から見た古代社会」

コーディネーター：武田 佐知子（大阪大学名誉教授／日本海学推進機構会長）
東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒、同大学院修士課程を経て東京理科大学大学院博士課程修了、文学博士。
大阪外国語大学教授として日本古代史・服装史・女性史を研究し、衣服を手がかりに国家形成や国際関係、ジェンダー、王権論を考察。
著書に『信仰の王権 聖徳太子』（中央公論新社1993）、『衣服で読み直す日本史』（朝日新聞社1998）など。
濱田青陵賞、紫綬褒章などを受賞し、女性学研究会の組織化など教育・社会貢献にも尽力。

パネリスト：安念 幹倫（となみ散居村ミュージアム館長／砺波市立砺波散村地域研究所事務局長）
富山県砺波市生まれ。奈良大学文学部史学科卒業後、富山県教育委員会で埋蔵文化財の調査に従事し、元埋蔵文化財センター所長。
現在は散村地域研究所事務局長、となみ散居村ミュージアム館長を兼任。
考古学を通じた郷土富山の歴史紹介や、史跡・遺跡を地域活性化につなげる観光考古学の普及、散居村の調査研究に取り組んでいる。

パネリスト：上野 誠（國學院大學文学部日本文学科教授（特別専任）／奈良大学名誉教授）

パネリスト：鈴木 景二（富山大学学術研究部人文科学系教授）
神奈川県生まれ。奈良大学文学部卒。神戸大学大学院文化学研究科単位取得退学。
日本学術振興会特別研究員を経て、1996年9月に富山大学人文学部助教授となり、2006年4月に教授、
その後、組織改編をへて現職。日本古代史が専門だが、他の時代にも興味を持ち、最近は鰯寿しについて探求中。
近著に吉村武彦編『列島の東西・南北』シリーズ 古代史をひらくⅡ（共著・岩波書店2024）がある。





日本海学 シンポジウム

参加無料
要事前申込

「大伴家持から見た古代社会」

令和8年10月18日（日）13:00～16:00 高志の国文学館研修室101

お申込み方法 期限：令和8年10月14日（水）まで

お申込みフォーム、メール・電話、FAXいずれかの方法でお申込みください。

●お申込みフォーム●



●メール・電話●

氏名、連絡先
(電話番号・メールアドレス)
を明示のうえ、
下記お問い合わせ先まで
お申込みください。

●FAX●

FAXで申込みされる方は、下記に記入の上送信してください。

氏名：_____

電話番号：_____

メールアドレス：_____

令和8年度 日本海学講座

【第1回】

日時：令和8年11月15日（日）13:30～15:30

会場：高志の国文学館 研修室101

テーマ：「海を渡った日本語—日本海および南洋、南米に注目して—」

講師：中井 精一 氏（同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科教授）

ダニエル・ロング 氏（東京都立大学人文社会学部人間社会学科教授）

【第2回】

日時：令和8年12月12日（土）10:00～12:00

会場：高志の国文学館 研修室101

テーマ：「富山湾のさかなの未来を語る—変わりゆく海と漁業、地域のこれから—」

講師：稲村 修 氏（魚津水族館アドバイザー・元館長）

大屋 進之介 氏（東京海洋大学応用環境システム学専攻
博士後期課程2年）

申込み方法等詳細は
日本海学HPで
ご案内します。

お問い合わせ先

〒930-8501 富山市新総曲輪1-7 日本海学推進機構事務局（富山県多文化共生推進室内）

TEL：076-444-3156 FAX：076-444-9612 Email：adm@nihonkaigaku.org

🔍 日本海学

